

ほ一む桜ヶ丘を知ろう

桜ヶ丘にあるやまねっどほ一む桜ヶ丘。駅から歩いて10分ほどの所にあります。1階5名2階5名の合わせて10名の方が暮らしています。



こんにちは、やまねっどほ一む桜ヶ丘です。
ほ一むの流れは以前広報で紹介されたやまねっどほ一む林間と変わりませんので、桜ヶ丘は暮らしの瞬間を少し切り取ってみようと思います。

チャリチャリ〜ン♪

微かに帰りを知らせるドアベルの柔らかい金属音が聞こえてきます。ドスンドスンドンドスンドスンと強い足音。「おかえりなさい」「・・・」

眼を尖らせてずっと横をすり抜け「バタンッ」自室に籠ります。

ニコニコと笑顔でもう一人

もう一人のキミ（性別不明のためにこの呼称を使います）は、少し怪訝な顔をして立っています。

「椅子に座る？」身体で嫌々と教えてくれる。「トイレだね。行こうか？」

すっきりした後は、手洗いうがいをして、お茶を一杯ゴクリ、ニコニコしています。

さて、さっきの眼を尖らせたキミ「どーしたの？」と怒った顔をしているキミに話しかけます。溢れ出す怒りを爆発させるように話すと、少し落ち着いたよう。

「頑張ったんだね」と声を掛けます。「うん」と頷いてお風呂の準備。

「聞いてほしいことがあります！」と自分の希望をとにかく伝えてくれるキミ。発せられた言葉からはほんの少しだけれども、キミの希望へ一歩近づきます。

「疲れたから、寝たい！」真っ暗な部屋で布団を被るキミ。「ちょっと、顔見せて。久しぶりだから顔みたいなのって」「疲れてるの！ふふっ（笑）」（おっ、ちょっと話させてもらえそうかな）「疲れてるんだー。仕事忙しかった？」「うん」二言三言話をして部屋を出ます。

「コレッ」とCDを渡されて、「変えるの？」とCDを交換。

ニコニコと音楽を聴きます。すぐに「コレッ」とまた違うCDを指さし、「そっか、そっかー」とまたまた交換します。

みんなお風呂に入り、洗濯機が終わるのを待ちながら少しのんびり。最後のキミが帰ってきます。

「おかえり。お風呂すぐに入れますよ。入りますか？」無言だけど、お風呂の準備を済ませこちらを見ている。お風呂で痣を発見！「あれっ、ぶつけた？」「ううん」首を横に振る。

「痛くないの？」「うん」

食事の時間。みんな揃ってご飯を食べたり、ちょっとみんなとはタイミングを外してご飯を食べたり、苦手なものを除けたりしながらの食事。

10人には10人の暮らし方があり、色々あるのが個の暮らしです。

怒ったり、悩んだり、眠れなかったり、内緒で食べたり飲んだり、みんなが工夫しながら暮らしています。

だんだんと夜が更け、やがて空が明るくなり朝を迎えます。

「おはよう」「おはようございます」「いってきます」

キミはサボることを選択せず張り切って出掛けていきます。

「気をつけて、行ってらっしゃい」

チャリチャリーン♪

今日も微かにドアベルの金属音が聞こえてきました。「ただいまー！！！！」

元気な声が聞こえます。

グループホームの暮らしを広げる支援は決して多くはありません。

その中で、ガイドヘルパーを活用しながら少しだけ外に広げるキミがいます。

私たちが細々とできること。基本、みんなで作ることに

限ってしまいます。

誕生日にはケーキを買ってバースディソングを歌ったり、

お休みが続く日はドライブや外食などに出掛けたり、

クリスマス会や、年越し蕎麦を打って賑やかな食事会。

休みの日や夕方「誰か遊びにきてくれないかなー」

そんな声も聞こえます。

顔見知りのお客さん大歓迎。きっとキミは、少し自慢気にスタッフを紹介をして一緒にお茶を飲もうとテーブルに誘ってくれますよ。

(川嶋)

